

IMF 専務理事のグローバル政策アジェンダ

2013年10月

要旨

過去5年に渡り、最悪の事態を回避し、大恐慌を防ごうと多くの取組みがなされてきた。最近までの経済回復は期待外れだったが、先進国・地域における活動の活発化を示す有望な兆候がいくつかみられる。成長低迷と市場不安の繰り返しという悪循環を断ち切るには、既に進行中の数々の移行を慎重に対処する必要がある。この移行とは、世界金融市場の正常化、世界経済の成長力学の変化、世界経済の需要の再調整、そして国際金融システム改革の完了等を指す。これらの課題に対処し、今後さらに5年間、期待外れの成長に甘んじないためには、より一層意欲的な改革の実行と政策の一貫性が求められる。

今後優先すべき政策は、国ごとに異なる。

- **先進国・地域**—信頼に足る中期的計画に裏打ちされた漸進的な財政調整を伴いつつ、マクロ経済政策は経済を継続的に下支えすべきである。米国は債務上限を引き上げ、中期的な財政調整の見取り図に合意するとともに、金融状況の正常化を慎重に処理し、シャドーバンキング（影の銀行）の適切な監視を強化する必要がある。ユーロ圏においては、金融の分断の緩和と欧州連合の構造的課題及び成長回復に向けた構造改革のための更なる対策が求められる。日本における改革の成功の鍵を握るのは、意欲的な中期の財政調整と成長を促進する施策である。
- **新興市場国・地域**—最近の金融混乱への政策対応は、健全かつ信用度の高い金融政策枠組みを基礎に行われるべきである。過度で無秩序な調整を防ぐためにバッファー（外貨準備など）を用いつつ、ファンダメンタルズ（経済の基礎的状況）の変化に応じた為替相場を容認する必要がある。巨額の赤字と債務を抱える国々は、漸進的な財政健全化を継続すべきである。今後の高成長を支えるには、インフラの不足と市場の参入障壁を含む構造的な障害を取り除くことが重要になる。
- **低所得国**—依然として殆どの国で底堅い成長が続く一方で、世界的な下振れリスクは、先を見越したマクロ経済政策の必要性を示している。外貨準備高の増加及び国内の財政余地の維持が優先課題である。包摂的な成長の促進には、多方面における措置が必要である。
- **世界的に**—依然として残る対外的な不均衡の是正には、主要先進国・地域における政策ギャップの縮小を更に進める必要がある。国際金融システムをより安全な状態へ確実に移行させるために、未実施となっている規制改革を完了させるべきである。

IMFは加盟国の前進を支援していく。政策の対外的波及効果、世界的不均衡、政策ミックス等に関する、多国間政策分析、対話、連携を目的とした他に見られない議論の場を提供し、また、的を絞った政策助言及び能力構築を行う。加えて、IMFは様々なファシリティ（制度枠組み）を通じて資金支援を行う幅広い能力を有している。しかしながら、IMFの財務の健全性と信頼性を維持するには、ガバナンス及びクォータ改革の迅速な進展が重要である。